

# 転倒予防と看護研究

泉 キヨ子

(金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻)

このセミナーは「転倒予防における看護研究の動向を知り、実際の医療現場で研究的に取り組む方法について理解を深めること」を目的に2004年8月21日14時～17時に実施した。担当は筆者と平松知子講師、加藤真由美教員(現京都市立看護短期大学講師)、正源寺美穂教員を中心に大学院生3名も関わった。内容は1. 転倒研究の動向とアセスメントツールの概要(泉キヨ子)、2. アセスメントツールの使い方について(平松知子)、アセスメントツールのデータ入力について(加藤真由美)、4. 転倒予防のための看護師ができる運動プログラムと実際(加藤真由美)をプレゼンテーションし、その後ディスカッションをした。すなわち、実践に役立つように、筆者らの日頃の転倒研究について紹介しながら、リスクアセスメント方法と予測妥当性や信頼性、どのようにデータ入力するか、介入の方法として運動プログラムを紹介した。

まず、転倒研究の動向とアセスメントツールの概要については、どのような視点から転倒の研究がなされているか、転倒における前向き研究と後ろ向き研究の意味、臨床で使いやすいアセスメントツールにはどんなものがあるか、何を基準に効果があるといえるのか、筆者らが開発したアセスメントツールはどんなものか、どのような臨床現場で使用し、どんな結論を得ているか、について

講義した、アセスメントツールの使い方については、ツールを用いる前に注意する点として、同じツールでも入院時と月初めでは予測妥当性に違いが出ること、アセスメントの点数だけでなく、チーム間でツールの評定者間の信頼性を高めること、アセスメントツールの具体的なつけ方と活用についてわかりやすく説明した。アセスメントツールのデータ入力については、Excelを用いてのデータ入力の基礎を講義し、参加者も短時間であるが、コンピュータに入力できるようにもした。最後の運動プログラムはエビデンスのある先行研究の紹介から実際に療養型病床で作成したプログラムを紹介し、看護師の介入方法やその効果についても報告した。

当日の参加者は34名(応募は48名)であった。施設や病院で転倒予防に関わっている看護師が多かった。全体としての評価は良好であったが、1回に多くの内容を入れたので一部消化不良の人もいたのではないかと危惧した、特に、コンピュータに触れていなかった人にはこのあたりが難しかったであろうし、予測妥当性の計算を知りたい人には物足りなかったと思う。

今後、さらにこのような機会があれば、これらについてひとつひとつ丁寧に掘りながら、本会セミナーにふさわしい研究への高まりへ階段をさらに昇りたいと考える。

## 看護管理と研究 ―看護記録と超勤の管理―

俵 友 恵

(元 金沢大学医学部保健学科看護学専攻)

開催日時：平成2004年11月20日  
土曜日14時～16時

参加人数：23名

セミナー内容

本セミナーは、2002年に当大学の学部生に指導を行いながらまとめた1つの看護管理に関する研究のプロセスを紹介し、看護管理という視点でいかに研究を行なうかについて提言を行った。

研究のプロセスについては、調査方法や分析方法など調査開始時点でどこまで検討をしておくのか、データを収集する際に本研究は観察を行っていたため何に配慮したのかについて研究計画書を提示し解説した。また、研究を論文としてまとめる際には、論理的一貫性があり、かつ分かり易く、看護への有用性は何かを振り返ることについて研究内容をスライドで提示しながら説明を行った。

以下に、紹介した研究「看護師の超過勤務の実態調査と超過勤務に対する思い」の概要を述べる。

良質な看護サービスを提供するためには、サービスを提供する看護師自身が心身共に健康的な状態で職務を行うことは重要である。しかし、臨床では超過勤務のない入院施設は少なく、超過勤務は看護師の蓄積的疲労に深く関与し、1日の超過勤務時間が長いと身体的な疲労だけでなく、精神的・社会的な疲労も強くなるといわれている<sup>1)</sup>。その一方で、看護師の多くが超過勤務はある程度必要だと考えている<sup>2)</sup>という報告もある。そこで、超過勤務で行っている業務の実態とそれに対する思いを2002年に調査をした。

調査施設は特定機能病院の一施設で、任意に内科病棟と外科病棟を各々2病棟ずつ選出し、その病棟に勤務する師長を除く看護師を対象者とした。調査方法は、土日祝日を除く32日間の日勤と深夜勤の超過勤務時間とその業務内容について研究者らが秒単位でタイムスタディを実施した。さらに、超過勤務についての思いは、質問紙にて無記名の留め置き調査にて実施した。なお、対象者には、研究の同意を得て実施した。

75名のタイムスタディの結果、1人あたりの超過勤務は日勤で135分、深夜勤で99分であった。日勤における超過勤務の業務にかかる時間は、記録47分、病棟管理31分、患者と直接関わる業務28分、スタッフ間の連絡28分の順に長かった。深夜勤では、記録36分、スタッフ間の連絡29分、患者と直接関わる業務28分の順に長かった。

66名の超過勤務についての思いは、全員が超過勤務を減少させたいと述べており、その理由として8割が超過勤務により「身体的・精神的・社会的負担が大きい」「自分の時間が持てない」と挙げていたにも関わらず「集中力低下により医療事故をおこしやすい」と挙げた看護師は1割程度でしかなかった。

## 文 献

- 1) 佐藤和子, 天野敦子: 看護職者の勤務条件と蓄積疲労との関連についての調査, 大分看護科学研究, 2(1), 1-7, 2000.
- 2) 村上英子, 佐々木直美, 松永須美恵, 他: Y病院看護婦の労働環境に関する意識調査, 日本看護学会第24回集録 看護管理, 85-87, 1993

# 母性看護学から見た中高年女性の健康課題

坂 井 明 美

(金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻)

## 1. 女性の一生

生理的側面, 社会的側面, 個人的側面

## 2. 中高年期女性の健康教育の視点

- 1) 加齢に伴う心身の変化を理解する。
- 2) 生活習慣病と第1次予防, 第2次予防を理解する。
- 3) 今までの人生を肯定し, プラス思考で自立した生活が出来るよう支援する。
- 4) 個を尊重し, 性差を考慮した医療チームを充実させる。

## 3. 中高年期女性の心身の変化

- 1) 中高年女性の身体の特性
  - (1) 加齢に伴う全身性の変化
  - (2) 加齢に伴う内分泌機能の変化
- 2) 中高年期女性の心の特性

## 4. 中高年期に伴う疾患と緩和

- 1) 更年期障害
- 2) 排尿障害(主に腹圧性尿失禁)
- 3) 骨粗鬆症(主に閉経後骨粗鬆症)
- 4) 乳房疾患
- 5) 子宮筋腫
- 6) 子宮内膜症
- 7) うつ

## 5. 「子供が育つ魔法の言葉」

ドロシー・ロウ・ノルテ